

三條別院のご案内

三條別院に想う

当寺先代住職は、若い頃三條別院に勤めておりました。縁あって当寺に入寺してからも、第二の実家の様に折々別院に足を運んでいました。そんな訳で、私は「三條別院」という響を幼い頃より耳にしてまいりました。

私が初めて別院に参詣致しましたのは、父に連れられ地域のご門徒さんと共に行った、宗祖七百回御遠忌の時でした。まだ小学生の私は、別院本堂の大きさに驚いた事と、昼食の弁当の事が記憶に残っています。きっと神妙な面持ちでお参りしていたのでしようが、その事はすっかり忘れてしまいました。

時は経て、二〇一五年には宗祖七百五十回御遠忌法要が計画され準備が進められています。しかし、昨春秋に「三條教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌検討委員会」が実施した教区御遠忌に関するアンケート調査の回答率は、十四パーセントと低調でした。御遠忌にむけた教区内の熱が全く感じられません。そんな中、今年五月二十三日に検討委員会より提出された答申書を受け「三條教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠

忌実行委員会規程」及び「三條教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌特別会計規則」並びに「三條教区宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌特別会計収入支出予算書」が矢継ぎ早に可決され、十分な広報がなされないまま、本年度から御遠忌に向けての募財が始まりました。もう少し丁寧に各方面の意見を集約し、それを周知していくための時間が必要であったのではないでしょうか。いささか拙速であったのでは、との感が否めません。

ともあれ、教区御遠忌はスタートを切りました。願わくは「実行委員会」の皆様方の英知を集め、全ての人々の心に残る教区御遠忌となり、その事をもって三條別院が次の代にも教区の中心施設、中心道場として受け継がれていく事を念ずるものであります。

(第二十二組本悟寺住職 美野 彰恵 氏)

○次回の「三條別院に想う」は、

安藤 栄寿 氏 (第二十一組 勝鑿寺) より

ご執筆いただきます

■すす払い奉仕研修が開催されました

「すすはきは十二月廿日、古よりかはらず御入候」『實悟記』とあるように、すす払いは寺院の伝統行事として根付いたものになっています。当別院でも十二月十五日に、第十八組主催のすす

払い奉仕研修が開催され、荒瀬原有之氏(第十五組蓮照寺)にご法話をいただき、十六日には別院有志の会を交えて、諸殿のすす払いを行いました。はじめに輪番と浄圓寺住職により、御本尊及び宗祖御影のすす払いが執行され、その後本堂、旧御堂、書院と清掃をすすめました。二〇一五年の教区親鸞聖人七百五十回御遠忌法要に向けて本堂等の大規模修復が計画されていますが、毎日の清掃及び毎月、毎年の節目の清掃により本堂は維持されていくのだと、一心不乱に清掃に励む御寺院・御門徒の姿から、改めて教えられる一日でした。



【普段は掃除しづらい場所を清掃】

■真宗本願御正忌報恩講団体参拝報告

去る十一月二十七日から二十九日の二泊三日で、真宗本願御正忌報恩講団体参拝に二十五名の御同行と上山いたしました。本年は、本山の結願速夜から御満座まで参詣し、おとぎの後、大谷祖廟、青蓮院と聖人ゆかりの地をめぐる、三重県の名古屋温泉で疲れを癒し、名古屋別院、名古屋城を経て帰路に着くという行程でした。十一月とはいえこの季節の京都は寒く、二十八

日の晨朝から広い御影堂で参詣していると底冷えはするのですが、御満座が近づくにつれて高まる参詣者の熱気と坂東曲の迫力は、寒さを忘れさせるものでした。また、大谷祖廟と青蓮院では紅葉が



【御影堂前で集合写真】

素晴らしく、赤く染まった景色の中、御同行と念仏申せることの有難さを感じました。来年も三条別院では団体参拝を行う予定です。本山の報恩講に、共にお参りしませんか。

■御命日（二十八日）の集い

宗祖親鸞聖人の御命日であります毎月二十八日に、「御命日の集い」を本堂にて、日中法要と法話、その後、座談会の場を開いております。

どなたでもお参りいただけます。皆様のご参詣をお待ち申し上げます。

なお、前日（二十七日）はお速夜法要を、午後一時三十分よりお勤めをしております。

【二月二十八日（月）】

午前十時 お勤め（御命日 日中法要）

文類偈 行四句目下

念仏讃 洵五

和讃 回口 次第六首

回向 願以此功德

◎今月の法話講師

米山裕子 氏（真学院第一期卒業生）

◇今後の講師一覧

- 二月 鷺尾 幸雄 （三条別院輪番）
- 三月 朝倉 泰 氏（第二十組 金寶寺）
- 四月 東護 典子 氏（第十九組 改觀寺）
- 五月 渡邊 智龍 氏（第十八組 恩長寺）
- 六月 美野 彰恵 氏（第二十二組 本悟寺）

■定例法話会について

毎月十三日の前門首のご命日（両度の命日）に行っている定例法話会ですが、一月は休会となります。

一月以降の法話講師については、「二〇一三年上半期 聞法会のご案内」をご覧ください。



【全4回の北原了義氏の法話が昨年12月で終了した】

■別院声明教室のご案内

別院声明教室を毎月一回開催しております。門徒の朝夕のお勤め、得度考査の内容の講習です。参加者を継続して募集いたしますので、ご希望の方は是非ご連絡ください。



【講師の島津崇之氏】

◇開催日 二〇一三年 一月 十七日（木）

三月 十四日（木）

四月 十八日（木）

五月 二十三日（木）

六月 十三日（木）

◇時間 午後六時より午後八時まで

◇会場 教区同朋会館（三条別院内）

◇講習内容 正信偈 草四句目下

念仏讃 洵三

和讃 弥陀成仏のこのかたは

次第六首

回向 願以此功德

◇講師 島津崇之氏（第十八組 満行寺）

◇持ち物 『真宗大谷派勸行集』または『大谷聲明集 上』、念珠、筆記具

◇参加費 五〇〇円/回

■東日本大震災犠牲者追弔法会について

当別院では春彼岸会期間中の三月二十三日（土）に、東日本大震災犠牲者追弔法会（三回

忌法要)を計画しています。昨年行った被災地の記録・ボランティア等の活動記録に加え、チャリティーバザーを計画しています。多くの方のご参詣をお待ちしております。

■仏画をご寄贈いただきました

権ハル氏模写・加筆
による津村別院壁画
『無明と寂光』(杉本哲郎作)、及び『十二光仏』を、権氏より寄贈していただきました。同朋会館内に展示しておりますので、ご来院の折にご覧ください。



■別院奉仕研修について

先達の篤き御懇念によつて護持されてきた三条別院にお越しいただき、その歴史に触れていただくとともに、現代の様々な問題を抱える私たちが、真宗門徒として親鸞聖人のみ教えに出遇う、そのような奉仕研修会を開いてみませんか。

ともに語り合い、人間として生きる意味を尋ねていく場となればと考えております。
○日程及び内容について、ご要望等ございましたらご相談承ります。
○奉仕研修会を参加いただく方(団体)の、冥加金は左記のとおりです。

◎冥加金

- ・日帰り 一、五〇〇円
- ・一泊二日 二、五〇〇円
- ◎食事代(昼・夕食は業者発注のため)
 - ・朝食代 五〇〇円
 - ・昼食代 一、〇〇〇円程度
 - ・夕食代 一、三〇〇円程度

■三条別院巡回について

かつて三条別院の御影をお迎えし、各ご門徒のお宅で聞法会が頻繁に行われておりました。しかし、時代の流れや、世代の交代で今では数えるほどしか行われていません。

ご門徒の皆様をはじめ有縁の方にご案内いただき、三条別院巡回がより多くの方々のお念仏をいただくご縁となりますことを、願っております。

※巡回の曜日・時間等はできるかぎりご都合に合わせておりますので、お気軽にご相談ください。

■三条別院有志の会について

三条別院では「三条別院有志の会」という集いを持ち、法話や座談会(茶話会)など、近隣の方をはじめ、有縁の方にお集りいただいております。

現在十余名の有志の皆様によつて活動しておりますが、「三条別院有志の会」では、より多くの方に参加賜りたく、新たな参加者を募っております。お気軽にどなた様でもご来院くださいますよう、ご案内申し上げます。お問い合わせ

せは三条別院まで。

◇◇編集後記◇◇

歳末に除夜の鐘を撞き、修正会で二〇一三年が始まる。年が明けて新たな気分を迎える……とは言えなさそうな昨今である。さて、「除夜の鐘」と言えば、昨年九月の秋彼岸会で藤波龍英師(第十八組西入寺)より、三条別院の梵鐘が太平洋戦争のために供出され、現在のものは戦後新たに鑄造されたものであり、『無量寿経』の「天下和順し日月清明にして、風雨時をもってし災厲起らず。国豊かに民安し。兵戈用いることなし」(『真宗聖典』78頁)から「天下和順日月清明」の句が抜粋して記されていることを教えられた。梵鐘には戦争を繰り返してはならぬという願いが込められていたのだ。永代経の台帳を整理する中で、多くの備考欄に「戦死」とあったことを思い出した。平和が危うい均衡の上に成り立っていたことが誰の目にも見えてきた今、いかに己が無自覚に梵鐘を撞いてきたかを知らされた。

しかしながら、迫りくる重大な危機について考え、検討する時間が、今の私にはなく、日々の営みに忙殺される。この種の無能とも言い換えられる「愚かさ」を、いったい親鸞聖人はどうお考えになるだろうか。今年も同じ過ちを繰り返すのか?と問われているような気がする。

(S)

別院メールアドレス: sanjo-betsuin@wing.ocn.ne.jp